

「在留支援のためのやさしい日本語ガイドライン」に関する有識者会議（第4回）
議事概要

1. 日 時

令和2年7月20日（水）午後4時34分から午後6時20分まで

2. 場 所

ウェブ会議

3. 出席者（敬称略）

（委員）庵委員，岩田委員，新居委員，水野委員，山口委員，山脇委員，藤波委員
（事務局）出入国在留管理庁：在留管理支援部長，在留支援課長
文化庁：国語課日本語教育評価専門官（課長代理）

4. 議 事

パブリックコメント及び用語書き換え例（案）に関する意見交換

5. 発言概要

【パブリックコメント及び在留支援のためのやさしい日本語ガイドライン（案）の整理に関する説明】

事務局からパブリックコメントにて受領した意見をガイドライン（案）のページごとに27の検討事項として整理したこと，及び，意見を踏まえてガイドラインに反映等を行った点について説明した。また，ガイドライン内の文章の流れを見直し，必要な部分は段落を入れ替えるなど整理を行ったことを説明した。

【パブリックコメントに関する意見交換】

（委員）パブリックコメントの18番の意見について，やはり分かち書きの記載は必要ではないか。平仮名だけで読む場合を考えると，分かち書きの有無で文章の理解に大きな差が出る。

（委員）分かち書きについては，議論の上でガイドラインに含めないとしたため，不採用としたい。

（委員）21番の意見について，手書きと同じ字体になる読みやすいフォントを使う配慮はあってもいいと思う。

（委員）学校現場では，教科書にUDフォント（ユニバーサルデザインフォント）が採用されてきている。

（委員）UDフォントは，いろんな人にとってやさしいフォントと聞いている。記載できるとよいと思う。

（委員）ツールによってフォント搭載の有無があるため，「このようなフォントもある」という書き方であればよいと思う。

(委員)22 番の意見について、自動翻訳もしやすくなるので、括弧書きの中に振り仮名を入れる書き方の例示もあるとよい。

(委員)23 番の意見について、PCDA サイクルを意識して文言を付け加えたとのことだが、やさしい日本語で書くというのはその都度内容が違いため、必ずしもその経験を次に生かせるということでもないので、違う表現の方がよい。「まわりにいる日本語教師や外国人に確認してもらいます。」というようにしてはどうか。

(委員)日本語教師や外国人が近くにいればよいが、そうでない場合は急にハードルが上がってしまう。一方で、伝わるかどうか確認してもらうに越したことはないので、何か良い表現はないか。

(委員)「もらいましょう。」がよいと思う。

(委員)15 番の意見を踏まえ、健康保険証の例示を削除しているが、ガイドライン 16 ページの例題に健康保険証が入っているので、削除するか、例題を変更するほうがよいのではないか。

(委員)健康保険証という元の言葉とやさしい日本語による注釈の例として残してもよいのではないか。

(委員)使用頻度が高い単語なので、例示の削除及び例題の変更はしなくてよいのではないか。

(委員)行政が書き言葉として文章を書く際に、「健康保険証を御持参ください」とはあまり書かないのではないか。他にもっと適切な例示があると思う。

(委員)省略語ではなく、尊敬語を使わないという例示にするのはどうか。健康保険証ではなく、他のものに変更するほうがよい。

(委員)「必ず印鑑を御持参ください」の言い換えとするのはどうか。

(委員)3 ページの第 1 段落で、「日本語の持つ美しさや豊かさを軽視するものではなく、外国人、高齢者や障害のある人など、日本に住む多くの人に日本語を使ってわかりやすく伝えようとするものです。」とある。やさしい日本語は海外でも用途はあると考えるので、「日本に住む」という部分は削除してはどうか。

(委員)ガイドラインの 8 ページについて、「主語と述語は一組だけを含むようにします。」とあるが、例示が主語と述語一組だけではないため、この表記を削除してはどうか。また、「教育費の増加と医療費の増加により」という文章を、「教育費と医療費の増加により」と書き換えているが、かえってわかりにくくなっているため、例示を削除してはどうか。

(委員)11 ページについて、書き換えツールの説明文があるが、日本語教育の専門家だけで作成されているものではないため、言語情報処理の専門家を加えてはどうか。

(委員)12 ページについて、リーディングチュウ太の紹介文に「N5～級外」と語彙レベルの表記があるが、ガイドラインでは特に基準は定めないこととしているため、削除するとよいのではないか。

【用語書き換え例（案）に関する意見交換】

(委員)『残業』について、「1 日に 8 時間、1 週間に 40 時間より長く働くこと」という

書き方では、「または」なのか「なおかつ」なのかが明確ではない。「1日に8時間より長く働くこと。または、1週間に40時間より長く働くこと」としてはどうか。

(委員)『小学校』『中学校』について、学校に通う対象者が年齢で記載されているが、校長裁量で在学時の年齢が記載と違う場合もあると思う。

(委員)やさしい日本語版の生活・就労ガイドブックでは、年齢に応じた学校や学年を表で掲載した上で、表がありきの説明をしている。文章だけになってしまうと齟齬があるので、語彙自体を削除してはどうか。

(委員)『育児休業』等の休業の言い換えについて、「会社を休むこと」と書くと勝手に自分で会社を休むようなニュアンスを含んでしまうので、「会社からもらう休み」ということになると思う。

(委員)「取ることができる休み」としてはどうか。

(委員)『外科』『内科』等について、簡単な表現に落とし込みすぎて、説明内容が不足しているのではないか。

(委員)『外科』について、やさしい日本語版の生活・就労ガイドブックの表現を使って、「けがを治したり手術をする病院」としてはどうか。

(委員)「たり」を使うのであれば、「けがを治したり、手術をしたりする病院」とするのがよいと思う。

(委員)『内科』も同様にガイドブックの表現を使いたいが、「かぜや、内臓の病気を治します」となっており、「内臓」が難しい単語である。

(委員)「かぜや、体の中の病気を治す」とするのはどうか。

(委員)用語書き換え例はあいうえお順になっているが、分野別とどちらがわかりやすいか。

(委員)用語書き換え例は、外国人よりも行政の担当者が見る機会が多いのではないか。単語がどの分野かと考えるより、あいうえお順で引いた方が探しやすいと思う。

(委員)分野別にすると、部局をまたがる単語もあるため、複数の分野に同じ単語を記載する必要も考えられる。あいうえお順がわかりやすくよいと思う。

以上